



## 2024年3月期 決算短信(日本基準)(連結)

2024年5月8日

上場会社名 アイホン株式会社

上場取引所 東名

コード番号 6718 URL <https://www.aiphone.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 富雄

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長兼経営企画部長 (氏名) 磯村 直輝 TEL 052-228-8181

定時株主総会開催予定日 2024年6月27日 配当支払開始予定日 2024年6月28日

有価証券報告書提出予定日 2024年6月28日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向けにオンラインによるライブ配信を予定)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期の連結業績(2023年4月1日～2024年3月31日)

#### (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期	61,334	16.1	5,268	40.2	6,130	47.1	4,645	58.6
2023年3月期	52,811	1.6	3,758	32.1	4,167	29.7	2,929	30.7

(注) 包括利益 2024年3月期 7,919百万円 (96.5%) 2023年3月期 4,030百万円 (15.7%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2024年3月期	283.98		7.5	8.2	8.6
2023年3月期	179.32		5.1	6.0	7.1

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期	78,416	64,913	82.8	3,966.65
2023年3月期	70,597	58,391	82.7	3,574.80

(参考) 自己資本 2024年3月期 64,913百万円 2023年3月期 58,391百万円

#### (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2024年3月期	9,056	58	1,699	21,587
2023年3月期	4,781	2,533	1,758	13,756

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産 配当率 (連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2023年3月期		40.00		40.00	80.00	1,306	44.6	2.3
2024年3月期		50.00		80.00	130.00	2,127	45.8	3.4
2025年3月期(予想)		50.00		80.00	130.00		59.1	

### 3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	29,500	2.2	2,000	33.8	2,100	40.1	1,500	43.2	91.66
通期	62,300	1.6	4,500	14.6	5,000	18.4	3,600	22.5	219.98

注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年3月期	18,220,000 株	2023年3月期	18,220,000 株
2024年3月期	1,855,220 株	2023年3月期	1,885,849 株
2024年3月期	16,357,189 株	2023年3月期	16,336,144 株

期末自己株式数

期中平均株式数

決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、【添付資料】2ページ「1. 経営成績等の概況 (1) 当期の経営成績の概況」をご覧ください。







































5. その他

(1) 役員の変動

① 代表取締役の変動

該当事項はありません。

② その他の役員の変動

新任予定監査役

(常 勤) 監査役 尾関 誠

(非常勤) 監査役 穂積 正彦

③ 就任予定日

2024年6月27日

(2) その他

該当事項はありません。

## 6. 補足情報 (連結)

## (1) 設備投資

(単位:百万円)

設備投資	当連結会計年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	次期計画 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
建物及び構築物	204	338
機械装置及び運搬具	196	670
工具、器具及び備品	410	520
リース資産	294	8
建設仮勘定	65	—
合 計	1,170	1,537

## (2) 減価償却費

(単位:百万円)

減価償却費 (有形固定資産)	980	1,123
----------------	-----	-------

## (3) 研究開発費

(単位:百万円)

研究開発費	3,971	4,261
-------	-------	-------

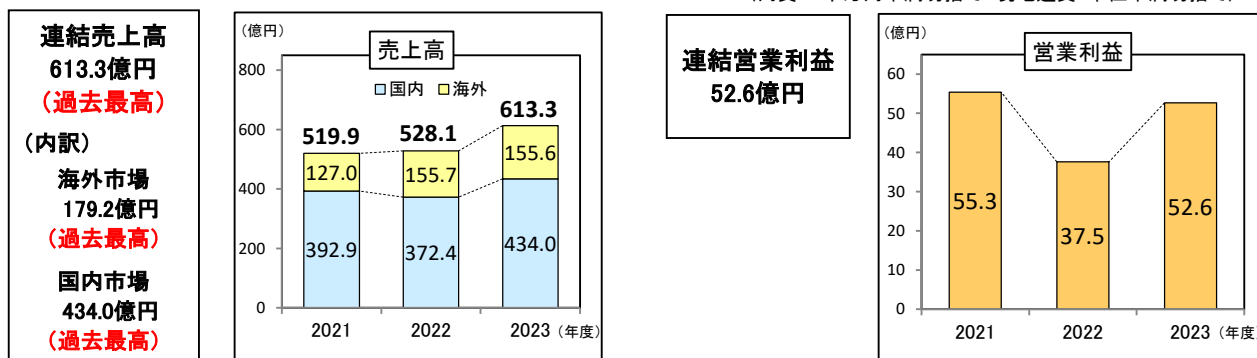
2024年5月8日

## アイホン株式会社 2024年3月期決算(連結)のポイント

**売上高** 電子部品等の供給状況の正常化に伴い、国内集合住宅市場のリニューアル及び北米を中心に前年度からの受注残・バックオーダーが解消したことや、為替の影響もあり、当初計画を大幅に上回り3期連続の増収となりました。

**利益** 営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、為替の影響や部品コスト等の増加はあるものの、大幅な増収により利益が増加し、大幅な増益となりました。

(円貨:1千万円未満切捨て 現地通貨:単位未満切捨て)



### 〔売上〕

国内市場全体で61.6億円の増加(前期比 16.5%増加)

#### ◆住宅市場

商品供給が正常化したことにより、前年度からの受注内定残が消化され、集合住宅市場のリニューアルを中心に増加。

住宅市場全体として23.0億円の増加。(前期比 19.6%増)

##### 戸建住宅市場

- ◎主力のワイヤレステレビドアホンの販売が好調に推移。
- ◎価格改定効果により売上が増加。

##### 集合住宅市場

- ◎分譲マンション向け高付加価値商品『dearis』の販売が好調に推移。
- ◎賃貸マンション向け商品『PATMO α』の販売が好調に推移。
- ▲市場競争の正常化により、分譲マンション向けの新築売上が大幅に減少。

#### ◆ケア市場

病院着工数減少の影響により新築は減少するものの、病院・施設等の課題解決型提案が奏功し、リニューアルが大幅に増加。

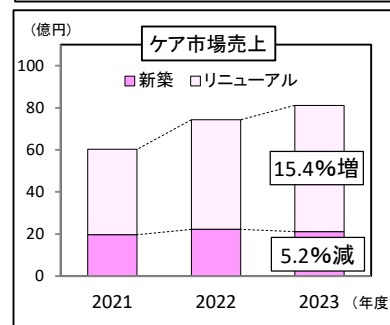
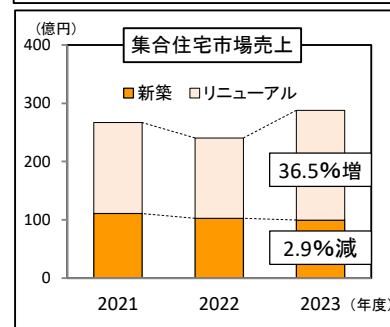
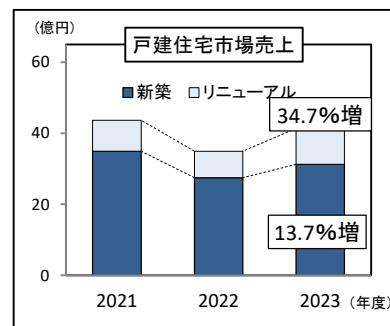
ケア市場全体として6.8億円の増加。(前期比 9.3%増)

##### ケア新築市場

- ▲当社の納入時期にあたる病院着工数は前期比減少。
- ▲病院案件の納入時期が上半期偏重となり、下半期は前期比減少。

##### ケアリニューアル市場

- ◎継続的なソリューション提案活動により、病院等への販売が好調に推移。
- ◎病院、施設等で「見守り支援」の需要が高まり、販売に好影響。
- ◎自治体等からの補助金活用によるシステム導入支援が継続。

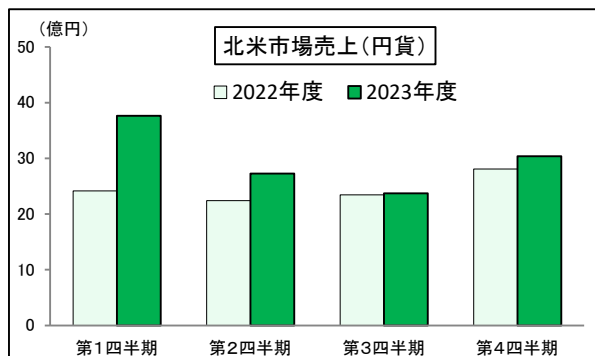
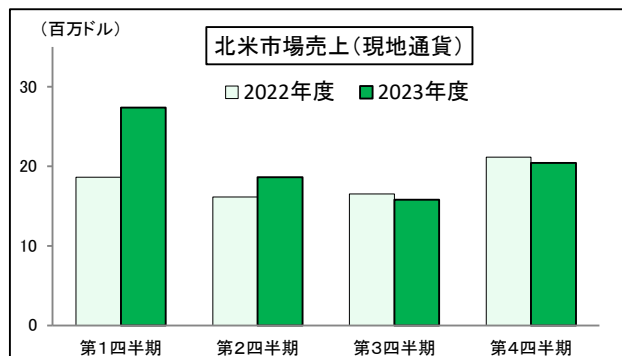


### 国内市場

住宅市場の販売に大きく影響を与えていた部品不足に起因する商品供給の不安定な状況が解消されたことにより、集合住宅のリニューアル売上が大幅に増加。集合住宅・病院の新築売上の減少はあったものの、国内市場全体で前期比 16.5%の増加。

◆北米市場 現地通貨ベースで増加(前期比 13.6%増)  
円貨ベースでは20.8億円の増加(前期比 21.2%増)

- ◎商品供給の正常化により、業務市場を中心にIPネットワーク対応商品の販売が増加。
- ◎バックオーダー発生時の代替商品として小規模物件での採用が進んだテレビドアホンの販売が、第2四半期のバックオーダー解消以降も好調を維持。
- ◎為替の影響により、円貨では前期から大幅に増加。
- ▲リモートワークの普及や金利負担の増大により、企業の自社オフィスへの設備投資を抑制する動きが見られたことなどから、下半期以降はオフィス向けの販売が急激に鈍化。



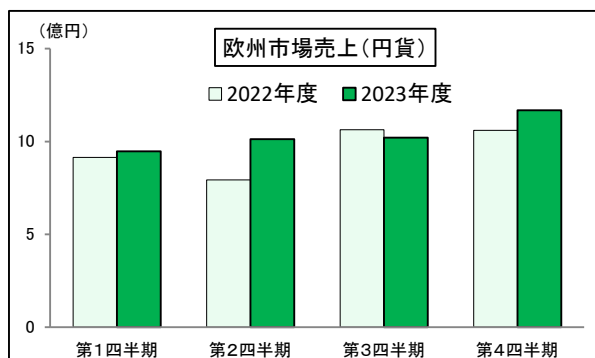
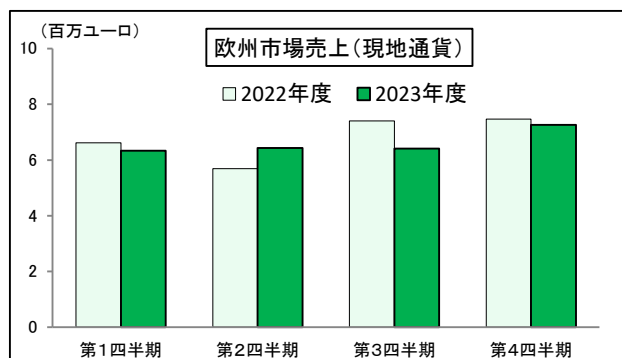
◆欧州市場 現地通貨ベースで減少(前期比 2.7%減)  
円貨ベースでは3.1億円の増加(前期比 8.2%増)

フランス

- ◎商品供給の正常化を背景に、積極的なプロモーション活動の推進により、戸建住宅向けWi-Fi対応テレビドアホンの販売が好調に推移。
- ◎為替の影響により、現地通貨ベースでは減少したものの、円貨ベースの売上が増加。
- ▲住宅ローン金利の上昇等に端を発する新築住宅着工数が大幅に減少。
- ▲エネルギー関連商材への投資を優先する傾向が強まったことにより、業務市場のインターホン販売が低迷。

イギリス

- ◎下半期以降の市況の安定化により、IPネットワーク対応インターホンシステムを中心に業務市場での販売が好調に推移。



海外市場

欧州経済の不安定な状況が長期化している影響により、主要国フランスの販売が減少したものの、商品供給の正常化を背景に北米のバックオーダーが解消したことにより、上半期の売上が大幅に増加。為替の影響もあり、海外市場全体で前期比 15.2%の増加。

[利益]

営業利益15.0億円の増加(前期比 40.2%増)  
経常利益19.6億円の増加(前期比 47.1%増)  
親会社株主に帰属する当期純利益17.1億円の増加(前期比 58.6%増)

- 売上高の増加や価格改定の効果により、売上総利益が大幅に減少。
- ▲研究開発費の増加等により、販管費が増加。

問い合わせ先  
アイホン株式会社 経営企画部  
052-228-8181